吉野熊野国立公園

よしくま　昭和11年指定

環境省 近畿地方環境事務所

吉野熊野国立公園アクセスマップ

環境省 近畿地方環境事務所
〒530-0042　大阪府大阪市北区天満橋1-8-75
桜ノ宮合同庁舎 4F
TEL.06-6881-6504　FAX.06-6881-7700

吉野熊野国立公園管理事務所
〒647-0043　和歌山県新宮市緑ヶ丘2-4-20
TEL.0735-22-0342　FAX.0735-23-1344

吉野熊野国立公園HP

吉野管理官事務所
〒639-3111　奈良県吉野郡吉野町上市2294-6
TEL.0746-34-2202　FAX.0746-34-2204

田辺管理官事務所
〒646-0035　和歌山県田辺市中屋敷町24-49
田辺市社会福祉センター3F
TEL.0739-23-3955　FAX.0739-23-3966

吉野熊野国立公園PR動画

大台ヶ原ビジターセンター
〒639-3702　奈良県吉野郡上北山村小橡660-1
TEL・FAX.07468-3-0312

宇久井ビジターセンター
〒649-5312　和歌山県東牟婁郡那智勝浦町宇久井830番地
TEL.0735-54-2510　FAX.0735-54-1540

写真協力
尾鷲市、熊野市、紀宝町、吉野町、下北山村、上北山村、田辺市、新宮市、みなべ町
那智勝浦町、那智勝浦町観光協会、北山村、南本町、県本海中公園センター
熊野川川舟センター、酒井哲哉、森田正文、森正将

令和5年9月作成

幽玄の山々、深い渓谷、黒潮流れる南海。

昭和11年2月1日指定。三重、奈良、和歌山の3県にまたがり、紀伊半島の山、川、海のつながりと、これらの自然の中で育まれた信仰や文化などの特徴を併せ持つ国立公園です。

～森川海のつながりと悠久の歴史・文化に出会う～

よしくまの「山」

自然豊かな紀伊山地は、古くから神聖な地とされ、深い森や滝、巨石や巨木、そこにもたらされる多くの雨と立ちこめる霧が、幽玄の世界へと誘います。

大台ヶ原・大杉谷

標高1,600mに広がる原生林

三重県と奈良県の県境を南北に走る台高山脈。その南端に位置する大台ヶ原は、年間降水量が3,500mmを越える国内有数の多雨地域です。熊野灘から吹き上げる湿った風が、標高1,695mの日出ヶ岳を最高峰とする台地に雨をもたらし、ブナやトウヒなどの原生林を育んでいます。また、大台ヶ原東斜面を流下する大杉谷は、日本三大深谷に数えられ、堂倉滝、七ツ釜滝、千尋滝など8つの大滝が連続するスケールの大きい景観が広がります。

しかし、大台ヶ原では、伊勢湾台風をきっかけとする森林の変化、さらにニホンジカの増加、大台ヶ原ドライブウェイ関通による利用者の増加など複合的な要因によって、その森が姿を変えています。環境省では「苔むす森を再び」を合言葉に、シカの被害を防止する柵を設置するなど、さまざまな取組を行っています。

トウヒの立ち枯れ（正木峰）

七ツ釜滝（大杉谷）

大台ヶ原随一の絶景（大蛇嵐より）

コマドリ

西大台地区　～原生的な森を未来に～

450haもの広大なエリアには、ブナやウラジロモミ、コケ類を含む多種多様な植物が生育しています。また、絶滅が危ぶまれている「紀伊半島のツキノワグマ」や、オオダイガハラサンショウウオのような貴重な生き物も生息しています。

このような原生的な雰囲気を保ち、静かな森の中でより深い自然体験をしていただけるように、西大台地区を「利用調整地区」に指定しています。「利用調整地区」への立入りには手続きが必要です。
（裏面の拡大図参照）

ここより先が利用調整地区（大台教会付近）

紅葉するカエデ林（開拓跡付近）

苔むす森（ヤマト谷付近）

自然再生・西大台利用調整地区については「吉野熊野国立公園大台ヶ原」で検索

大峰山系

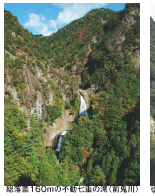
近畿の屋根・峻険な連峰

紀伊半島のほぼ中央に位置し、近畿最高峰の八経ヶ岳（1,915m）を中心として、標高約1,500m～1,900mの切り立った山々が南北約75kmに渡って連なっています。

大峰山系の稜線を走る大峯奥駈道は「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産にも登録されています。古くから神仏が宿るところとして、水々しい切り立った山々は、修験道の行場として慎ましく利用されてきました。

ハイキングや縦走登山に加え、現在でも信仰登山が盛んに行われています。

今なお大峯山寺への登拝が続く（山上ヶ岳）


総落差150mの不動七重の滝（前鬼川）

切り立つ山々（大台ヶ原1,780m）

吉野山

桜とともに息づく文化的景観

日本でも有数のヤマザクラの名所として知られる吉野山。

春、山麓から吉野山山頂にかけて、山一面がさくら色に染まっていく様子は人々を魅了してやみません。

吉野山では、もともと修験道の本尊、蔵王権現を祭り者が桜の木で刻み吉野山に祀ったことが始まりで、御神木の獣木として桜が植え続けられています。

その他、吉野杉として名高いスギ林や、仏に供える花の代わりとして用いられるコウヤマキの純林、社寺林として守られてきたシイ、カシ類を中心とした暖温帯林など様々な樹林が相まって、独特の森林景観が成り立っています。

史跡探訪や近畿自然歩道を利用するハイキングなど、季節を通じた十人十色の楽しみ方があります。

木々に取り囲まれる社殿（吉野水分神社）

開放な空間が楽しめる（奥千本）

ちょっと一息　吉野山では見晴らしのよいところに展望台が用意されています。遠くは金剛山や葛城山、目の前には緑に囲まれた吉野山の可憐みを爽快に見渡すことができます。

熊野三山

よみがえる熊野信仰

熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社。那智山青岸渡寺を総称して熊野三山と呼び、ここに至る参詣道が熊野古道です。熊野古道は、参詣者の出発点に応じて複数のルートがあり、昔ながら石碑や石畳の道を随所に見ることができるなど、悠久の歴史を感じさせます。

三重県と和歌山県の間を流れる熊野川も、古くから熊野三山を結ぶ重要な「川の参詣道」として利用されてきました。

熊野本宮大社

かつて熊野川の中州にあった社殿は、明治の大洪水以降、現在の場所に移築されました。ここから熊野速玉大社まで続く「川の参詣道」の一部を、川舟下りで体感することができます。

熊野速玉大社

熊野川河口に位置し、社殿の背後にそびえる千穂ヶ峰には、祭神が最初に降臨したと伝えられる神倉神社まで森歩道が整備されています。

熊野那智大社

日本一の落差を誇る「那智大滝」への自然崇拝を起源としており、滝の背後には南方熊楠が粘菌の採取を行った那智山原生林が広がるなど、自然の末の姿を今日に伝えています。

那智山青岸渡寺

古くは如意輪堂と呼ばれ、西国三十三所霊場の第一番札所でもあります。

熊野修験の一大本拠地として、現在も多くの参拝者が訪れます。

熊野川・川舟下り

青岸渡寺の三重の塔と那智大滝

熊野古道「大門坂」の石畳

熊野速玉大社

よしくまの「川」

我が国有数の多雨地帯である、大峯山脈と大台ヶ原。その大峯山脈を水の源とする熊野川は、大台ヶ原を水の源とする支流の北山川と合流して熊野灘に注ぎ、「山」と「海」をつなぐ大事な役割を担っています。また、日本屈指の名瀑である「那智大滝」など、崖の上から流れ落ちる滝を各所で見ることができます。

熊野川・北山川

かつては木材を下流へ運ぶための筏流しや、生活物資を運ぶ水上交通なども盛んに行わるなど、人々の生活は、熊野川の恵恵を受け、川と深く結びついてきました。北山川では、今でも筏流しにちなんだ「筏下り」が体験できます。

瀞峡

北山川の大蛇行（三重県・木津呂、和歌山県・嵐渡）

瀞峡（どろきょう）

大自然に屏風を立てたように、断壁が川面からそそりたつ渓谷。七色ダムから下流のヒロ峡、小森ダムから下流の奥瀞、田戸から下流の下瀞（瀞八丁）と、田戸から上流の上瀞に分かれます。川舟に乗って見上げれば、迫力満点！

川湯温泉

川原を掘れば、川底から湧き出す70度以上の源泉と、熊野川の支流大塔川が混ざって程よい温度となり、自分だけのオリジナル温泉が出来上がる全国でも珍しい温泉です。

よしくまの「海」

熊野灘から和歌山県の千里の浜まで続く、よしくまの「海」。この海は、黒潮の流れる暖かな海と北の海が出会うことで多様で豊かな海の恵みを生み出し、人々の暮らしを支えてきました。その一方で、海流や海岸の地形の複雑さから、水上交通の難所とされてきました。また、津波などの自然災害の経験からも、人々は自然の脅威を学んできました。

海岸線の絶景で自然の芸術を体感！

海岸線では、大小の湾が複雑に入り組んだ海岸や、ゆるやかな弧を描く浜を始め、多くの島が点在する多島海など、バラエティーに富んだ海岸地形が見られ、訪れる人を楽しませてくれます。

熊野灘

鵜ヶ崎（熊野市）

楯ヶ崎・鬼ヶ城

尾鷲市から熊野市に至る海岸線は、山地が海まで迫り、大小の湾が複雑に入り組んでおり、楯ヶ崎の大絶壁や鬼ヶ城の海蝕洞窟などでは、熊野灘の荒波が奇岩・巨岩に打ち付ける圧倒的な景色を楽しむことができます。

七里御浜（しちりみはま）・王子ヶ浜

小石の浜が、穏やかな弧を描いて南北約30kmつづきます。ここでは、クロマツなどの防風林やハマボウなどの海浜植物群落とともに、美しく雄大な景観を見ることができます。

七里御浜（熊野市、御浜町、紀宝町）

勝浦・大地

複雑に入り組んだ湾の中に、大小の島が浮かぶ多島海景観が見られ、「海の松島」と呼ばれています。勝浦周辺は温泉が湧出し、マグロなどの遠洋漁業基地でもあることから、温泉につかりながら漁師可の風情を味わうことができます。また、古くからの捕鯨基地である太地では、くじらの博物館などでその文化にふれることができます。

紀の松島・ウクダ磯（那智勝浦町）

くじらの博物館（太地町）

橋杭岩（那智勝浦町）

潮岬（しおのみさき）

本州最南端に位置する岬。太平洋を一望でき、海から昇る朝日と海に沈む夕日が見られるスポットとしても有名です。

潮岬灯台（串本町）

橋杭岩・海金剛

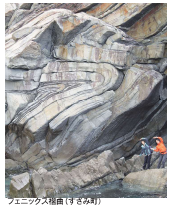
大小30余の柱状岩列が、まるで橋杭のように海上に並び、不思議な景色をつくり出しています。海金剛は巨岩が海面から突き出し、鋭く切り立った岩礁に荒波が砕け散る様子が迫力満点です。

ウミガメを守るためにご協力ください！

七里御浜、王子ヶ浜、千里の浜を始めとする紀伊半島の海岸線は、日本有数のアカウミガメの産卵地です。産卵期になると、地域の方によるパトロールなどが行われています。また、卵やアカメを守るために、七里御浜や王子ヶ浜では毎年5～9月に、千里の浜では1年を通して、浜への車両の乗入れ規制が実施されています。ウミガメたちのふるさとを守るため、ご理解とご協力をお願いします。

千里の浜（みなべ町）
大海原へ旅立ちます
アカウミガメのチビガメ

枯木灘～白浜


フェニックス褶曲（すさみ町）

フェニックス褶曲

グニャリと曲がったこの地層はフェニックス褶曲と呼ばれ、大地の変動をダイナミックに感じることができるところです。世界的にも貴重な存在で、南紀熊野ジオパークの見どころのひとつです。

三段壁・千畳敷

三段壁は、高さ50mもの海食崖が2kmにも及び、ダイナミックな景観が楽しめます。また、千畳敷は、波の浸食でできた平らな海蝕台隆起した地形で、砕ける波の迫力や海に沈む夕陽など、様々な表情が楽しめます。

三段壁（白浜町）

千畳敷（白浜町）

円月島

正式名称を"扇島"と言います。特に、夕日が洞門に重なる光景は風情があり、和歌山県の夕陽100選にも選ばれており、多くのカメラマンや恋人たちに愛されています。

円月島（白浜町）

田辺湾

天神崎

日本におけるナショナルトラスト運動先駆けの地。干潮時には広くて平坦な岩礁が出現し、磯遊びや生き物とのふれあいを楽しむには最高の場所です。

天神崎（田辺市）

神島（しんしま）

古来より海上鎮護の神が奉られ、南方熊楠が愛し、神社合祀から守った神島の森は、南紀の海岸性の優地性植物群落の特徴をよく表しており、国の天然記念物にも指定されています。魚つき林としても大切にされ、島と海が一帯となった田辺湾らしい景観です。（上陸には田辺市教育委員会の許可が必要です）

神島（田辺市）

畠島

京都大学瀬戸臨海実験所の実験地として、長年に渡りモニタリング調査が行われており、田辺湾の景観から同復に至るまで、その変化を見守り続けてきた貴重な場所です。（上陸には京都大学瀬戸臨海実験所の許可が必要です）

世界最北のテーブルサンゴ群集！

海の中をのぞいてみよう！

浅い海に広がる岩礁や藻場、干潟、サンゴの海は、海の生き物の産卵や生息・生育に欠かせない場所として、豊かな海の生態系や漁業の生産性を支える大切な存在です。また、本州最南端・潮岬より西側の海では、黒潮がもたらす暖かな海水によって、温帯でありながら、熱帯で見られる海の生き物が生息・生育し、色鮮やかな海中景観を楽しむことができます。昼寝、スノーケリングやダイビングで楽しんでみてください。

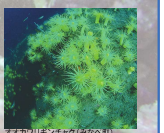
サンゴを守る活動実施中！

サンゴを食害するオニヒトデや悪臭等が大量発生し、サンゴの生息が脅かされています。そこで、地域の自治体やダイビング事業者などと協力して、これらの生物の駆除やモニタリング活動を実施し、貴重で美しいサンゴ群集を守っています。

オニヒトデの駆除

オオカワリギンチャク

みなべ湾の沖に位置するショウガセというリ環礁は、日本国有種であるオオカワリギンチャクが初確認された国内最大の群生地であり、海域公園地区にも指定されている場所です。そして、ダイビングの人気スポットでもあります。非常に希少なことから、オオカワリギンチャクの採取や損傷は一切禁止されています。


オオカワリギンチャク（みなべ町）

よしくまの「楽しみ」

よしくまの「食」